

### がん対策

**問** 子宮頸がんのリスクに備え、ワクチンの接種対象者への個別案内・周知活動についての所見はどうか。

**答** 接種の積極的勧奨を控える前に比べ、ワクチン接種者が大きく減少している状況を踏まえ、必要な情報をホームページに掲載するだけでなく、より丁寧に伝えることが重要であると考えています。実施主体の市町村と協議しながら、対象者に個別通知を行うよう働きかけ、希望者が適時に接種できるように取り組んでいきたいと考えています。

### 住民設置型水位計

**問** 住民が設置する簡易型水位計に対する県の評価はどうか。

**答** 県では87か所に水位計を設置していて、ホームページやテレビで正確な水位情報をリアルタイムで見ることができます。住民の意向に応じて、県が全ての場所に水位計を設置することは不可能ですが、補完するものとして、簡易型水位計が設置され、両方相まって地域防災力が向上していけば、まさに理想的であると考えています。

### ICT教育

**問** オンライン授業を充実させるべきと考えるがどうか。

**答** オンライン授業は、長期の臨時休業時においても有効な手段であることから、県教育委員会として強く進めていきます。市町村教育委員会でも、それぞれのICT教育の整備状況に応じてオンライン学習の準備を進めており、この10月には全ての小中学校で準備が整うと考えています。今後もオンライン授業が充実できるよう市町村教育委員会を積極的に支援していきます。

### 第6期きのくに教育審議会答申

**問** この答申を受けて、どのような思いや決意で高校教育の改革を進めるのか。

**答** 活力ある高校教育の実現のためには、生徒の希望、興味・関心、適性に応える教育システムを備えた学校の配置が必要で、一方で地域の実状に応じた高校の在り方という観点も大切です。今後改革を進める上で厳しい意見があるかもしれませんが、この機を教育の質の向上と改革の好機と捉え、将来の子供たちへの責任を果たすべく強い決意で進めていきます。  
**第6期きのくに教育審議会答申**  
…県教育委員会は、令和元年10月、第6期きのくに教育審議会に対して、「これからの県立高等学校の在り方について」高等学校が地域とともに持続可能な存在であるために、…について諮問し、令和2年8月、同審議会により答申がとりまとめられました。

### 気候変動への対応

**問** 県もこれまで以上に地球温暖化対策に取り組む必要があるのではないか。

**答** これまで、地域において実践できる地球温暖化対策を積極的に進めてきましたが、第4次和歌山県環境基本計画が今年度で終了するため、次期計画では、気候変動に関する国内外の動向、県内の経済状況や社会状況も十分に踏まえながら、脱炭素社会に向けた新たな削減目標や、県全体が一丸となって気候変動に対処していくための取組の方向を示し、本県の地球温暖化対策の一層の充実を図っていきます。

### 日本製鉄(株)関西製鉄所和歌山地区第1高炉休止の影響

**問** 高炉休止の影響を受けて、新たな雇用を生み出す経済活動や雇用のサポートをどう考えるのか。

**答** 県では、これまでも雇用対策は非常に重要と考え、産業人材の確保と働く場を創出する産業振興に取り組んできたところです。産業人材の確保については、高校生の県内就職や大学生のUターン就職を促進するマッチング支援に重点的に取り組んでいます。

一方で、働く場を創出する産業振興については、企業の成長促進や創業支援、企業誘致等の

様々な取組に加え、新たな産業の創出も図っていきます。

今回の高炉休止により影響を受ける人のみならず県内就職を希望する全ての人の働く場所の確保に努めていきます。

### 和歌山県誕生150年式典

**問** 和歌山県誕生150年式典について思いはどうか。

**答** 和歌山県は明治4年に誕生し、多くの先人が今に至る歴史を紡いできました。このため、来年秋に予定している記念式典は、県民が政治、経済、文化、スポーツなど、幅広い分野にわたって和歌山県が育んできた素晴らしい歴史を学び、次代に引き継ぐとともに、ふるさと和歌山になお一層愛着と誇りを抱くことができるようなものとしていきたいと考えています。



和歌山県誕生150年記念ロゴ

### 大規模公共建築物の木造化

**問** 大規模公共建築物の木造化に向けた取組はどうか。

**答** 平成24年2月に策定した和歌山県木材利用方針において、木造化が可能と判断される大規模公共建築物については、木造化を図るよう努めることとしています。

今後大規模な公共建築物を建築する場合は、耐火性能や構造強度、コストといった課題を、民間の新しい技術・工法の活用や国の中規模木造庁舎の試設計例を参考に、一つ一つ解決し、より一層の木造化に取り組めます。

### 和歌山電鐵貴志川線の存続

**問** 貴志川線の存続に向けた県の考え方はどうか。

**答** 和歌山市及び紀の川市が鉄道用地を保有し、県と両市で和歌山電鐵(株)が保有する設備の更新等の費用を支援する和歌山版公設民営で、貴志川線の安定的、永続的な運行に取り組んでいるところです。

近年、利用者数の減少により運賃収入が減っています。沿線住民の方々ははじめ関係する皆さんが「乗って残そう」という取組をしていただければ、県も両市と共に、一生懸命後押しをしていきたいと思っています。



Designed by Eiji Mitooka+Don DesignAssociates

### 高齢者の農福連携

**問** 高齢者福祉の視点から農福連携を推進してはどうか。

**答** 農福連携については、年齢にとらわれることなく、障害や多様な課題を抱える人が、農作業を通して、地域とつながることができるよう、県においても推進しているところです。

元気な高齢者の意欲に応じて、様々な分野での活躍を促すことにより、生きがいづくりを進め、ひいては介護予防につながるよう努めていきます。

**農福連携**…障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。

これにより担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保も期待されています。

### 安全なまちづくり

**問** 水災害に対応した「安全なまちづくり」についてはどうか。

**答** 近年頻発化、激甚化する水災害に対応するために、国において、既存の河川改修に加え、流域のまちづくりと連携した流域治水の検討が進められています。

本県としては、氾濫被害を軽減する河川改修等のハード整備を行うとともに、市町村のまちづくりと連携を進め、流域治水を実現し、住民等の水害リスクを低減させていきます。